

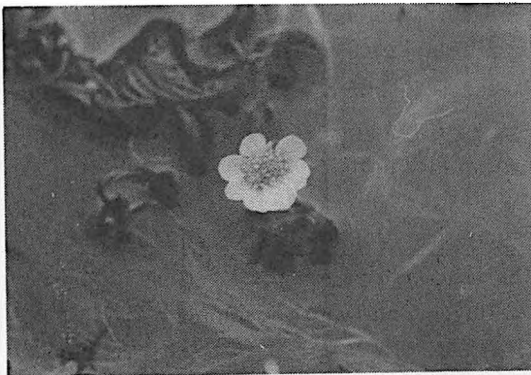
写真2. 常滑市鬼崎地区のウラギク (1986.11.2)

町の塩田跡地には、南知多ビーチランドが建設開園されているが、一角の沼池に群生が残存している。

抽水性のシバナについては、伊勢湾側の知多市、常滑市、美浜町と衣浦湾の最奥部境川にその生育記録がみられる。伊勢湾側の生育地はすべて消滅。現在、衣浦大橋北方の東浦町藤江の護岸堤防下に、小群生を確認するのみとなった。塩水の入る河口や用水に群生するウラギクは、まだ半島内各地でみられ、水質汚染に耐えて咲く花はたくましい。

バイカモの8弁花

角野康郎



バイカモの花弁は5枚がふつうで、注意しているとまれに6枚のものがある。ところが、昨年12月13日、兵庫県水上郡青垣町の佐治川(加古川上流)で開花中の花の中に8弁のものを1コ見つけた。珍しい例ではないかと思うので、写真で紹介しておきたい。

ところで、バイカモの花期について手元の文献をみる

と、6~8月としているもの(佐竹他編『日本の野生植物』など)から、3~11月(大滝・石戸著『日本水生植物図鑑』)としているものまでであるが、私自身の観察によるともう少し長いようだ。事実、上記の観察も12月中旬のもので、いかに暖冬とはいえ狂い咲きといった性質のものとは思われなかった。では、真冬にはどうなるのかと思い、去る2月7日に現地の様子を見に行った。バイカモはあざやかな緑色で元気よく育っていたが、さすがに水面上に出て咲いている花はなかった。しかし、水中で開花中の花をいくつか認めたほか、つぼみは次々と発達していることが確認できた。実がたくさんあったことも、ごく最近の開花を示唆していた。ちなみに当日は暖かい日で、正午の水温は9.2℃であった。

豊富な湧水があって冬も水の暖かい所では、一年を通して開花が続くのではないかというのが私の予想である。身近にそのような場所のある方に、ぜひ確かめていただきたいものと思っている。

○文献リスト<1986—(2)>

- 井上裕靖・植木邦和. ホテイアオイの密生群落形成過程について. ホテイアオイ研Newsletter (9): 2-6.
- 薄葉 満. イセウキヤガラを福島県に記録する. 東北植物研究 (3): 18.
- 大隈光善. 筑後川下流域のクリーク雑草「チクゴズズメノヒエ」の生態と防除. 雑草研究 31: 108-115.
- 沖 陽子. 水生植物利用学会に参加して. ホテイアオイ研Newsletter (9): 17-19.
- 小田中敏男. ホテイアオイの密度管理と在庫システム. ホテイアオイ研Newsletter (9): 13-14.
- 桃田聖孝・清水正元. ホテイアオイサイレージの実用的調整法に関する研究. ホテイアオイ研Newsletter (9): 6-8.
- 栗原 康・佐藤雅志・吉田輝久・森 忠洋. ヨシ (Phragmites australis) を利用した下水汚泥のコンポスト化とその水稻への施用効果. 日本土壤肥料科学雑 57: 442-446.
- 汐見信行・鬼頭俊而. アカウキクサの多目的利用. 水処理技術 27: 123-130.
- 種坂英次. ヒエ属多年生種, *Echinochloa stagina*